

## 佐世保市立大久保小学校

〒857-0049

佐世保市東大久保町9-10

校長 佐藤 正実

児童数 136名

学級数 6学級



### 目的

#### いのちの教育の充実

～ 「いのちを見つめる集会」と道徳・特別活動・生活科・  
総合的な学習の時間の時間を中心として ～

心の教育の充実とコミュニケーション能力の向上について、身の回りの様々な「人・もの・こと」とのかかわりを通して推進し、自立貢献できる子どもを育てる。

#### 学力の向上

～ コミュニケーション能力の向上  
を生かし、学力の伸びを感じとる  
子どもの育成を通して ～

#### 子どもを中心にすえた 大久保コミュニティ体制の構築

～ 家庭や地域との  
連携をもとにして～

## 実践内容

### ◎いのちの教育の充実 ～「いのちを見つめる集会」と 秩序ある生活をめざして～

#### ○いのちを見つめる集会

6月1日に「いのちを見つめる集会」を開催し、いのちの教育の充実を図った。

校長講話では、日野原重明医師の「いのちとはその人に与えられた時間です」という言葉から、いのちの大切さを児童に考えさせた。大久保小学校では、

- ①「いじめをなくそう 言葉ってだいじだよ」
- ②「心をつなごうあいさつってだいじだよ」
- ③キーワードは「思いやり」

以上3つのことを特に大切にしていけることを児童に示した。この3つのことは、学校生活の様々な場面で確認し、指導を積み重ねた。また、児童、保護者、地域それぞれの代表が決意の言葉を表明したことで、いのちの大切さについてみんなで考えることができた。



#### ○赤ちゃんふれあい体験学習



6月28日に5・6年生児童48名が市幼児教育センターの協力を得て「赤ちゃんふれあい体験学習」を行った。市内の乳児とお母さん18組が来校し、児童とふれあった。いのちの大切さ・尊さ・

不思議さを学び、相手を思いやる気持ちを育むことができた。



#### ○「あいさつ」「そうじ」の徹底

「立ち止まって、相手の顔を見て、気持ちのよい声であいさつ！」大久保小学校では、あいさつ運動を実践している。生活環境委員会の児童が「ワンストップあいさつ運動」の大切さを、



全校児童に呼びかけた。児童は、来客の方や登下校時に見守りを



してくださる地域の方にもあいさつができるようになっている。教師が指導するだけでなく、児童の主体的な活動が見られたことも大きな成果である。そうじについては、縦割りそうじに取り組んだ。協力することや心をこめて仕事をするなど、等上級生から下級生へ伝えられ、本校の伝統の一つになっている。

## ◎学力の向上 ～コミュニケーション能力の育成を通して

### ○コミュニケーションレベル表を生かす

コミュニケーションレベル表を活用した授業実践を積み重ねた。研究授業では、指導案に活用の仕方を明記し、研修を重ねた。コミュニケーション（聞く力、話す力）の自己評価を行った。児童自身が定期的に振り返った結果は、グラフ化（レーダーチャート）し、教室内に掲示した。このような取り組みで、児童には、相手を意識した話し方や聞き方、かわり方が身についてきた。



### ○学力テストを生かす

学力テストを全学年で年間2回実施した。（1年生は、年度末のみ。1・2年生は、国語・算数を実施。3年生以上は、国語・算数・理科を実施。）校内研修で結果を分析した後、課題克服の手立てを共通理解し、全職員で実践に取り組んだ。また、保護者には、結果をもとに、更に伸ばしたいところや改善が必要なところを知らせ、家庭での学習の協力を依頼した。家庭や児童の学習意欲が高まるとともに単元テストの結果等も確実に伸びてきた。

### ○家庭学習の習慣化

家庭学習の習慣化と質の向上をめざし、家庭学習の取り組み方についてまとめた「家庭学習の手引き（低・中・高学年用）」を作成した。

- ・家庭学習のよさ（効果）
- ・発展学習の例
- ・基本的な進め方
- ・家庭でのサポートの仕方

保護者懇談会で上記の内容を説明後、全児童に配付した。家庭学習後は、家の人に内容を見せ、押印（サイン）をもらうことで、次の家庭学習の励みとなった。高学年児童には、進め方や学習の例を参考に、自主的な学習に取り組む児童が増えてきた。



### ○整理整頓の指導と心の教育



毎月「整理整頓の日」を設定し、筆箱、道具箱、ランドセルの中を整理整頓する活動に取り組んだ。この活動の継続により、児童は学習に必要なものを持ってこない習慣がついてきた。持ち物には、名前を書く児童も増え、落し物が少なくなり、物を大切にすることもつながっている。

また、第2火曜日の朝は、職員による「心の教育」をおこなった。「体の話」、「音を出さずにみんなで合わせる」、「平和の大切さ」「大久保小のよいところ探し」などの話を行い児童の心を耕した。このような働きかけにより、落ち着いて学校生活を送ることができるようになり、学習にもよい影響を与えている。

### ○読書に親しむ子どもに

図書ボランティアと連携し、様々な活動を仕組んだ。

- ①朝8：00～図書ボランティアが在室し、本の貸出と返却の見守りをおこなった。
- ②毎週月曜日は、図書ボランティアによる読み聞かせ（2学年）をおこなった。
- ③梅雨時期の読書月間や秋の読書祭りを実施した。図書ボランティアによる低学年・高学年別の読み聞かせをしたり、



教師が、担任外の教室に出向き、「先生の出前おはなし会」を行ったりした。

- ④図書室を季節感あふれる掲示物で整えることができた。  
これらの取り組みにより、児童は、図書室を身近に感じている。登校後には、図書室に足を運び、本を選ぶ児童が見られるようになった。読み聞かせのときも、児童は読み手を見つめ、落ち着いた態度で聞き、話の内容を楽しんでいる。図書ボランティアの活動のおかげで、読書に親しむ児童が増えた。



## ◎子どもを中心にすえた大久保コミュニティ体制の構築 ～家庭や地域との連携をもとにして～

### ○学校支援会議

年間7回開催する本会議を介して、学校の考えや方針をより確かに家庭や地域へ伝え、学校で取り組んでいる教育活動に対して、様々な角度から忌憚のない意見を受けている。賞賛されることも多く、職員のやる気と自信につながっている。



### ○ふれあい運動会

4月から大久保地区町内連絡協議会と話し合いを重ね、5月20日に学校と地域の合同開催「大久保小ふれあい運動会」を実施した。6つの地域種目には、19か町から多くの参加者を得た。児童には、地域の方々に自分たちの練習の成果を見ていただく、よい機会となった。「みなと佐世保音頭」は、児童・保護者・地域の方が一緒になって踊り、心和む光景となった。



### ○職場ふれあい体験活動

大久保小校区にある8つの地域の事業所の協力を得て、6年生が実際に仕事を体験する学習に取り組んだ。

当日だけではなく、事前の挨拶や事後のお礼（保護者と一緒）をする活動を通して、人とつながる大切さを学ぶことができた。2日間の貴重な体験から、事業所の方々が地域に貢献しようとする気持ちをもち働いていることに気づき、感謝の気持ちと地域への愛情を育むことができた。



### ○輝きっ子発表会

生活科や総合的な学習等で学んだことを、他学年の児童、保護者、地域の方に対して発表した。「たくさんの方の前で堂々と自信をもって発表できる子どもを育てたい。」そんな願いをこめて発表会に取り組んでいる。

日頃から取り組んでいるコミュニケーション＝人と関わる力を発揮し、保護者や地域の方からも大好評であった。



### ○学校の教育活動を発信

学校便りやホームページを中心に、学校の様々な教育活動、教育方針、児童のがんばり等を広く発信した。

特にホームページは、毎日更新した。

緊急連絡等も含めた学校からの情報が、全家庭に素早く、きめ細かに伝えられる環境が整備できた。

